

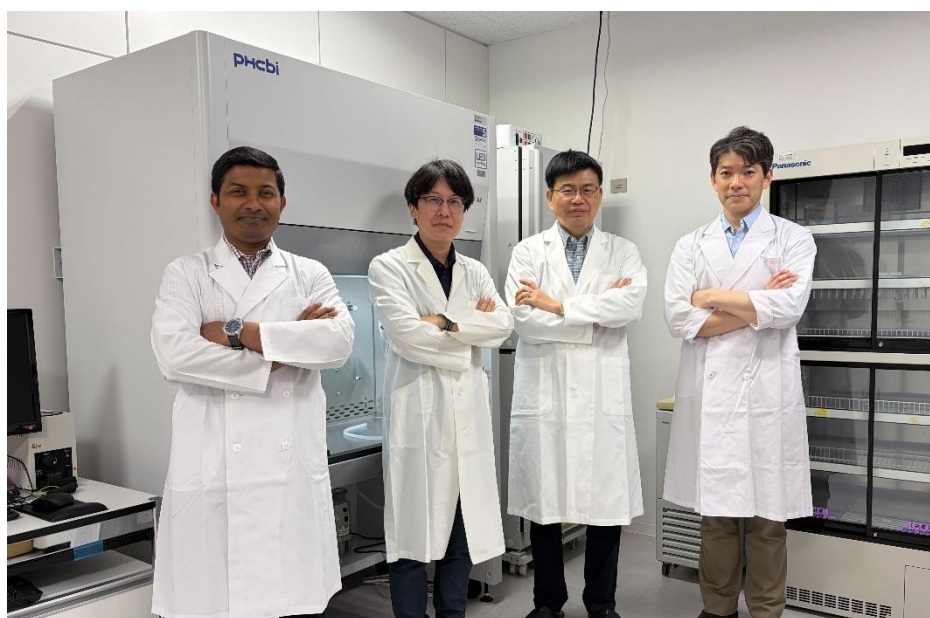
2026 年 6 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社坪田ラボ
 代表者名 代表取締役社長 CEO 坪田 一男
 (東証グロース：4890)
 問合せ先 企画管理本部広報・IR 機能長 木下 淳
 (TEL 03-6384-2866)

慶應義塾大学殿町タウンキャンパスに共同研究拠点を開設
～OPN5 の中枢神経系における機能解明を起点に、パイプラインの創出・進展を加速～

株式会社坪田ラボ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：坪田一男、以下「当社」）は、慶應義塾大学殿町タウンキャンパスに、中枢神経系に関する研究開発の推進を目的とした新たな研究拠点（以下「本拠点」）を開設いたしました。本拠点を活用し、慶應義塾大学の岡野栄之教授がセンター長を務める慶應義塾大学再生医療リサーチセンター、および同教授がチームディレクターを務める理化学研究所脳神経科学研究センターの研究チームとともに、これまでの知見をベースとしつつ、中枢神経系における機能の解明およびヒト OPN5 の分子特性や生理機能に関する深化研究（以下「本共同研究」）を行います。



【開設の背景】

これまで当社は、VL（バイオレットライト）による光刺激が非視覚受容体 OPN5 を介した近視進行抑制に与える作用に加え、中枢神経系疾患（うつ病、パーキンソン病など）、さらには脳の発達や健康に与える影響についても研究を進めており、当社の研究開発における重要なテーマの一つとして位置づけています。

こうした研究をさらに発展させるため、分子神経生物学・発生生物学・再生医学において世界

的に著名である岡野栄之先生のご尽力のもと、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター・理化学研究所脳神経科学研究センターの両研究チームとの共同研究を開始し、その拠点を開設しました。本共同研究は、国内外の大学・研究機関との共同研究を通じて新たなシーズを創出し、当社がその社会実装を担うビジネスモデル「Co-Creation Core (コ・クリエイション・コア：CCC)」*1の一環として位置づけています。

【研究内容】

非視覚受容体 OPN5 の中枢神経系における機能の解明、ヒト OPN5 の分子特性・生理機能に関する研究。

【研究体制および設備】

本拠点では、慶應義塾大学、理化学研究所脳神経科学研究センター、および当社の研究者が連携し、以下の体制・設備のもとで共同研究を推進しています。

● 研究体制

- 再生医療、神経科学、脳神経外科学、量子生命科学、眼科学など、多様な専門分野の研究者が参画
- 教授を含め約 7 名、PI (Principal Investigator：研究主宰者)・研究員では約 5 名体制

● 設備環境

- 再生医療リサーチセンターでは、iPS 細胞をはじめとしたヒト細胞研究に対応した高度な実験設備が整備されており、共同研究にて利用可能
- 理化学研究所脳神経科学研究センターでは、超高磁場 MRI などの設備が活用でき、脳機能・脳構造を非侵襲的かつ多角的に解析できる体制が整っている
- 当社は、専用の実験室・細胞培養・光刺激実験環境も構築し、独自研究を推進



本拠点は、神経科学分野の研究者が集積する環境にあり、先端技術・知見へのアクセスや研究ネットワークの形成も期待されます。

【共同研究先コメント】

慶應義塾大学再生医療リサーチセンター センター長／理化学研究所脳神経科学研究センター マーモセット神経疾患モデル研究チーム チームディレクター 岡野 栄之先生

このたび、株式会社坪田ラボとの共同研究を開始できることを大変嬉しく存じます。本共同研究では、株式会社坪田ラボがこれまで蓄積してきた技術的知見に、私たちが培ってきた神経科学の研究基盤を組み合わせ、作用機序・有効性に関する科学的根拠を多面的かつ迅速に補強することを目指します。大学としての中立性と科学的厳密性を保ちながら、社会から信頼される成果の創出に貢献して参りたいと存じます。

*1 【Co-Creation Core: コ・クリエーション・コア：CCC】

当社はこれまで、自社内に研究施設を持たず、外部研究機関との共同研究を通じて、スピードと柔軟性を活かした研究開発を推進してまいりました。

当社の研究開発モデルである「Co-Creation Core」は、パートナーと研究の初期段階から課題意識や目指すゴールを共有し、新たな研究テーマや仮説そのものをともに共創し、双方の強みを組み合わせながら新たな価値を創出します。提携大学や研究機関が有する優れたサイエンスを早期に検証し、事業化の可能性を見極めるとともに、そこで得られた知見を他領域へ展開することで、幅広いポートフォリオの拡充を目指しています。

以上